

Taiwan

THE HEART OF ASIA

台湾

教育旅行

マニュアル



安心で安全な環境

日本人の旅行先として常に上位にランクインしている台湾。その治安の良さ、衛生面、団体旅行客の受け入れ体制など、教育旅行を安心・安全に実施できる環境が整っています。街のいたるところに監視カメラが設置されており、犯罪やトラブルの抑止にもつながっているので、台湾は生徒だけでなく、保護者が安心して送り出せる場所です。また、アジア圏の中でも特に親日度が高く、安定的に旅行のスケジュールが組めるというメリットもあります。

台湾が教育旅行先に選ばれる理由

海外修学旅行の行き先として、トップクラスの訪問地となっている台湾。日本から修学旅行で台湾を訪れた学校は年間300校以上*を数えます。年々その注目度を高めている台湾教育旅行。その人気の理由を探ってみましょう。

*文部科学省（日本）／平成29年度高等学校等における国際交流等の状況について



日本と深い関わりの「知日・親日国」

歴史的に日本との関わりが深く、現在も日本人にとってなじみ深い事物が点在する台湾。歴史や文化はもちろん、外国語体験など、生徒の目線で自然に発見・体感できる要素が数多くあり、未来を担う日本の生徒たちが「国際人」としての第一歩を踏み出す地として最適です。台湾は知日家が多い世界有数の親日国であり、日本語学習者も多いので、日本語で話しかけられたり、日本語表記の物を目にしたりする機会も多いです。フレンドリーでおおらかな台湾人との交流も楽しめるでしょう。

魅力あふれる食文化

教育旅行で意外と重要なのが食べ物のおいしさ。「食は台湾にあり」とされるほど豊かな食文化が息づいている台湾には、温暖な気候の中で収穫される食材をふんだんに使った料理や大人気のスイーツがずらりと並んでいます。おいしい食事を味わうことで、台湾の気候・地勢、文化、味覚の違いなども体感できます。





アクセスの良さ

日本各地の空港から直行便が多数就航。所要時間は約2～4時間で時差も－1時間のため、出発初日から効率のいいスケジュールを立てることが可能です。また、魅力的な研修スポットがいたるところにあるのも台湾の魅力。公共交通機関などのインフラも発達しているため、現地に着いてからの移動も自由自在です。

豊富な交流＆体験プログラム

「学校交流」はもちろん、伝統文化や現代カルチャー、食文化や農業、産業の体験プログラムなど、台湾には数えきれないほどの研修素材があります。教育旅行の受け入れ実績も豊富で、日本からの教育旅行の実施数は1位*と、積極的・継続的に双方から国際交流をはかることができます。





リーズナブルな費用

台湾の食費や交通費は、日本のおよそ半分です。また、距離的な近さもあり、欧米やその他の国・地域への教育旅行と比較しても、かかる費用はリーズナブルです。手ごろな台湾高速鉄を利用して中南部にも足を伸ばしてみませんか？費用を抑えながらも、充実したプログラムや環境が整っている台湾への教育旅行は、参加した生徒の多くが満足できるものになっています。

美しい自然と心豊かな人々に逢える「台湾」へようこそ

台湾は沖縄の南西に位置し、日本に隣接しています。気候は年中温暖で、豊かな自然が息づき、多種多様な動植物が分布しています。また、有史以前にマレーやポリネシアから移り住んだと考えられている先住民族の文化、17世紀のオランダによる支配を始めとする外国文化、さらに中華文化が複雑に融合し、今日の台湾文化を形成しています。こうした固有の自然や文化など、台湾には多くのビュースポットがあり、様々な切り口から研修旅行を楽しむことが可能です。豊かな国際感覚を持った若い世代の人材育成において、台湾では、国際コミュニケーションを推奨しており、活発な学校交流が行われることを期待しております。従来、台湾は世代を超えて親日・知日派が多いことで知られ、若年層の間では日本のドラマ、音楽、ファッションなど多様なカルチャーに関心が高く、日本語学習を選択する学生も多数おります。問題や課題があれば国民一人ひとりが立ち上がるという国民性の下、近年の重要なテーマであるSDGsにおいても台湾は独自の取り組みを進めています。台湾観光局では、関連機関や学校と連携を図り、訪台時の様々な経験を通して、やがて国際社会へ飛び立つ生徒に実りある国際視野を育む場が提供できるよう、全力を挙げてご協力させて頂く所存です。
台湾の観光業界を代表し、安心安全な台湾に、皆様の教育旅行訪問をお待ちしております。

台湾観光局

Basic Information

台湾基本情報

首都：台北市
面積：36,000平方km
人口：約2,320万人
種族：漢人、先住民（原住民）
言葉：マンダリン、台湾語、客家語、各先住民言語
日本との時差：－1時間

台北＆北部

北部エリアは、台湾最大の都市である台北を擁するビジネスや政治の中心地です。活気あふれる繁華街には高層ビルが立ち並び、グルメやショッピングなど、エネルギーに満ちています。また、郊外の温泉リゾート地域も開発されていて、さらなる発展を遂げています。台北より北のエリアでは淡水や九份など、人気スポットがたくさんです。





中部エリア

数多くの文化的イベントが開催される台湾第2の都市である台中市を中心とする地域です。ファッション、お茶、芸術などをはじめ、様々な中部圏ならではの文化が楽しめます。台湾高速鉄道を使えば台北や高雄へも1時間と、アクセスも良好です。台湾を代表する淡水湖「日月潭」や名水の里と呼ばれる「埔里」など、近郊には名所も点在しています。











東部エリア

台湾中央部にそびえる中央山脈を背に、太古からの壮大で美しい自然に恵まれた東部エリア。先住民文化が色濃く残り、静かな時間が流れています。サーフィンやサイクリングも楽しめるほか、大理石造りの絶景が見られる台湾の代表的景勝地「太魯閣（タロコ）峡谷」や、アジア最大級の海洋テーマパーク「花蓮遠雄海洋公園」など、観光名所も数多く点在しています。

南部エリア

南部エリアには、世界有数の港湾都市として発展を続けている台湾第3の都市、高雄があります。高雄は高層ビルが目立つ国際貿易都市としての顔だけではなく、風情ある景観も見られます。豊かな芸術文化の中心だった古都として知られる台南も魅力的です。屏東県の最南端では、3つの海峡を一度に見られ、ビーチリゾートも楽しめます。

【台湾の代表的な都市】

台北市

Taipei



【面積】約272㎢ 【人口】約247万人
【台湾読み】タイペイ
【歴史】先史時代から先住民が暮らしていましたが、清朝末期に都市化が進行。1885年の台湾省設置と共に省都となり、以後の繁栄を築いてきました。

花蓮市

Hualien



【面積】約29㎢
【人口】約10万人
【台湾読み】ホァーリェン
【歴史】スペイン人や漢民族による入植のあと、日本統治時代に花蓮港街として再編成。現在は、台湾四大港のひとつを擁する東部最大の都市です。

台中市

Taichung



【面積】約2,215㎢ 【人口】約278万人
【台湾読み】タイジョン
【歴史】17世紀の漢民族による大量移民のあと、開墾が進行しました。19世紀後半の清朝末期には、台湾の行政の中心地となり、近代都市として発展を遂げました。

高雄市

Kaohsiung



【面積】約2,951㎢ 【人口】約272万人
【台湾読み】ガオション
【歴史】台南安平港の補助港として1863年に高雄港が建設され、貿易によって著しい発展を遂げました。日本統治時代に港湾都市として開発が進められました。

台南市



Tainan

【面積】約2,192㎢
【人口】約185万人 【台湾読み】タイナン
【歴史】1624年、オランダ人の根拠地が設けられたことで栄え、1662年には台湾の英雄・鄭成功がこの地を奪還。その後、約300年間、台湾の中枢都市として発展しつづけました。

日本から台湾へのアクセス

台湾には、東京（羽田・成田）をはじめとする日本全国の各空港から、多数の直行便が定期運航しています。

台北

- 台湾桃園国際空港
  ＜台北市内までMRT桃園空港線で最速約35分、空港バス等で約1時間＞
- 台北松山空港
  ＜台北駅まで台北MRT（メトロ）、バス等で約20分＞

高雄

- 高雄国際空港
  ＜高雄市内まで高雄MRT（メトロ）、バス等で約20分＞

その他の主要国際空港

台中

- 台中国際空港
  ＜台中市中心までバス等で約1時間＞

台南

- 台南空港
  ＜台南市中心までバス等で約20分＞

台湾の交通機関



台湾高速鉄道（新幹線）
台北と高雄間を最短約100分で結ぶ、時速約300㎞を誇る鉄道。



台湾鉄道（在来線）
西部幹線、東部幹線のほか、支線として平渓線、内湾線などが各地を走っています。



MRT
Mass Rapid Transitは台湾のメトロで、教育旅行でも活用されています。



水上交通
淡水河と基隆河の固定航路である台北の藍色公路や高雄の旗津フェリーが有名。

【様々な角度から見た台湾】



留学

台湾の公用語は中国語（北京語）ですが、多くの英語のネイティブスピーカーが留学しているため、中国語と英語を同時に習得できるチャンスがあります。学費が欧米諸国に比べて大幅に安いことも、台湾を留学先に選ぶ大きな理由のひとつです。

生活・人々

生活費は日本の約半分なので、日本人が台湾を訪れると「物価が安い」と感じるでしょう。台湾は「心の知能指数（EQ）」を重視する文化で、人との関係を大切にし、相手を尊重したり思いやりの心を忘れません。明るく寛大な性格で、親日家が多いです。





自然

国土の3分の2は林地や高山で占められ、山脈、丘陵、盆地、平原、海岸などの自然が豊富で息をのむ絶景スポットが点在しています。原生特有種の比率が高く、台湾でしか見られない動植物が棲息しており、世界にとって重要な保育地でもあります。

食

やはり台湾といえば「グルメ」。台湾のおいしい食べ物を求めて世界中の人々が訪れます。食事を重んじている台湾だからこそ、独自の郷土料理からファーストフード、西洋料理、和食まで、あらゆる飲食文化が集結し、世界を魅了しつづけています。





自転車

世界屈指の自転車大国であるため、街のいたるところにレンタルバイクのステーションがあり誰でも簡単に借りることができます。また、風光明媚なサイクリングロードを整備したり、台湾MRTに自転車を持ち込めたりと自転車に優しい国です。

【台湾社会が取り組むSDGsの事例】

SDGsとは？ 近年よく耳にするようになったSDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略称で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。これは、2015年に世界150か国以上の首脳陣が参加した国連サミットで採択され、よりよい未来のために2030年までに達成を目指す国際社会共通の目標です。大きく17の目標で構成され、台湾社会も積極的に取り組んでいます。



▲国連が定める17の目標

アジア初「同性婚を認める特別法」＆ジェンダー平等教育



台湾はアジア圏で初めて同性婚の法制化を実現しています。また、様々なイベントや活動を通して、性的マイノリティとその家族を支援しています。中でも「台湾同志遊行」は、性の多様性や人権を尊重する東アジア最大規模のパレードと言われています。

レストランで食べ残しテイクアウトの習慣



台湾では食べ切れなかった料理を持ち帰ることが当たり前の文化になっています。街中の食堂から高級レストランまでフードロス削減に取り組んでいます。店員さんを呼んで打包「ダーパオ」と言えば包んでくれるので、試してみてください。

自来水博物館（台北）



「自来水」とは水道施設と水道水を意味し、館内では公共用水の施設や歴史を紹介しています。台湾の公共用水史は1885年に遡り、劉銘傳によって開かれた公用井戸が端緒です。その後、この場所に水源地が設けられポンプ室や浄水場が造営されました。

井仔脚瓦盤塩田（台南）



台湾最古の塩田で、衰退しつつある天日塩文化の保存と継承、環境教育の普及活動が永続可能な観光地として認められ、グリーンデスティネーション基金会（オランダ）による「世界の持続可能な観光地デスティネーショントップ100選」に選出されています。

順益台灣原住民博物館（台北）



現在、台湾には16の先住民族が公的に認定されています。この博物館では、各民族が生活する自然環境や歴史、文化的環境をはじめ、工芸品、楽器、住居モデル、日常生活用、織物、衣類、装飾品などが展示・紹介されています。

国立自然科学博物館 921地震教育園區（台中）



1999年台湾中部で発生した大地震の際の断層のずれ、校舎の倒壊、河床の隆起などが保存されており、主に自然科学、ニューマニティー、歴史記録の方面から展示と教育活動を行っています。錯視を利用して見る人によって異なる空間体験を与えています。

ゴミを減らす活動



台湾の仏教系団体「慈濟基金會」は、広大な面積を誇るリサイクルステーションを有し、衣類回収や台湾全土から集められた資源を再利用し環境保全につなげる活動を行っています。ボランティアたちの活動が国民一人ひとりの環境保全意識を高めています。

台南・四草緑色隧道（マングローブトンネル）



自然を間近に体感できる、台南市を代表する観光スポットのひとつです。河の両側には樹齢50年以上のマングローブが生い茂り、観覧船に乗って緑のトンネルを楽しむことができます。また、様々な動植物を観察でき、台湾の自然の豊かさを感じられます。

台北二二八紀念館



1947年に勃発し、多くの犠牲者を出した二二八事件に関する資料や証言を展示しています。この建物は、日本統治時代のラジオ放送局で事件の発端となった場所とも言われており、当時の建物と貴重な資料を通して人権の軌跡を伝えています。

History of Taiwan

台湾の歴史

台湾には先史時代からの7000年前から約400年前まで、南島（オーストロネシア）語族の先住民が定着していました。唐の時代から、漢民族の移動が始まっています。明朝の時代には、倭寇の活動が活発化し、台湾は海上貿易の根拠地のひとつとして注目されていきました。この時代には、漢民族だけでなく、日本人の移住も行われるようになります。

16世紀の大航海時代には西洋人が極東まで航海し、貿易活動や開墾を行いました。台湾は東アジアの陸と海の交点にあり、さらに東北アジア海域と東南アジア海域が交わる場所に位置していることから、東洋と西洋の各勢力が徐々に競合する場所となりました。17世紀前期には、オランダ人が安平（今の台南）に拠点をつくり、布教や貿易、各種の生産活動を開始しました。中国沿海地域の漢民族を募って台湾の開拓が進められました。これが台湾多民族としての歴史の発端です。





その後、短かった鄭氏政権の時期と清朝統治の200年の間に、漢民族の移民が徐々に増加し、台湾で漢民族社会が形成されていきました。19世紀末には、帝国主義の拡張が進み、台湾は日本の管轄地となりました。50年間にわたる日本の管轄を経て、台湾は伝統社会から現代社会へと転換し、1945年の第2次世界大戦の終了と共に、日本統治時代は終わりました。

1945年10月25日、台湾は正式に中華民国に復帰しました。その後、中国本土からきた国民党政府への不満から本省人（以前から台湾に住む漢民族）と外省人（国民党と共に中国からきた漢民族）は対立し、1949年には戒厳令がしかれました。

1971年には中華人民共和国が代表権を得て、台湾は国連を脱退。国際的には孤立した立場になりましたが、日本とは実務的な国際交流を続けてきました。

このような歴史が交錯する中、台湾は経済の奇跡と民主化を成し遂げ、世界的に注目されるようになりました。台湾の発展は、台湾自身の発展の脈絡から見ても、世界の歴史の脈絡から見ても、非常に特殊であり、世界各国の歴史学者の関心を集めています。

現在の台湾は、インフラストラクチャーの整備が進み、便利な交通システム、完備された通信サービスによって、アジア太平洋地域屈指の先進国となっています。



台湾歴史年表

台湾	オランダ時代以前	オランダ時代				鄭氏政権時代		清朝時代					日本統治時代					中華民国時代									
西暦	1544	1580	1624	1626	1642	1652	1661	1683	1684	1884	1885	1891	1894	1895	1908	1912	1919	1937	1943	1945	1948	1952	1968	1989	1996	2003	2005	2007	2015	2017	2019	2019
できごと	ポルトガル船員が台湾を「麗しき島」と賛美	スペインのイエズス会宣教師が初めて台湾訪問	オランダ東インド会社が安平に築城	スペイン基隆を占領	オランダがスペインを駆逐し、台湾北部を占領	オランダ統治に抵抗し、郭懐一が蜂起	鄭成功が台湾からオランダ勢力を駆逐	鄭氏、清軍に降伏	清が台湾を福建省下に置き、1府3県制をしく	清仏戦争により、フランス軍が基隆を砲撃	清が行政区画で、台湾省を設置	台北へ省都を移転。台湾鉄道開通（基隆・台北間）	日清戦争勃発	日清講和条約（下関条約）で台湾が日本へ割譲	台湾鉄道、南北縦貫鉄道前線開通	辛亥革命。中華民国建国	総督府（現総統府）落成	日中戦争勃発	6年制義務教育開始	第二次世界大戦終結。台湾が日本の統治から離脱	蒋介石が初代総統に就任	日華平和条約調印	9年制義務教育制度が発足	台湾の人口が2千万人を突破	初の総統直接選挙が行われる	日本を含む31か国のビザ免除期間を30日に延長	台湾を訪れる日本人旅客が初の100万人を達成	台湾高速鉄道が開業	台湾を訪れる外国人旅客が初の1千万人を達成	日台往来旅客数が650万人を突破	日本訪台人数が200万人を突破	日台往来旅客数が700万人を突破
日本	安土桃山時代		江戸時代									明治・大正							昭和								平成				

＜参考＞台北駐日経済文化代表処 ／公益財団法人日本台湾交流協会／交通部観光局（台湾観光局）

知っておきたい

【台湾と日本の関係性】

日台関係のはじまり

日本と台湾の関係が記録として確認できるのは16世紀末期（1593年）に豊臣秀吉が使者を派遣したことから、日台関係が表舞台に登場しました。

台湾の英雄は日台ハーフ

1661年にオランダの支配から台湾を救った台湾の英雄「鄭成功」は、日本人と台湾人との間に生まれたハーフで、7歳まで長崎の平戸で育ちました。

日本統治時代の建物

台北の総統府や台北賓館などは、日本統治時代の建物で、今でも現役で使用されています。破損等が発生した場合にも、修復して蘇らせた例もあります。

日本によるインフラ整備

公共インフラの多くは日本統治時代に整備され、台湾の教科書には幾人もの日本人が登場します。現在も台湾高速鉄道など、日本の技術が見られます。

鄭成功は日本でも認知

鄭成功の活躍は当時の日本でも知られていて、のちに歌舞伎狂言・浄瑠璃作者として知られる近松門左衛門が『国性爺合戦』で作品化しました。

現代建築にも日本人

台湾では日本人建築家が建てた建物がブームで、亜洲現代美術館、台中国立オペラハウス、高雄国立スタジアムなど、多くが日本人によるものです。

知っておきたい

台湾の発展に尽くした日本人



■後藤新平

1898年に台湾民生長官着任後、社会衛生分野でインフラ整備や医療の大改革を行い、「台湾近代化の父」と呼ばれました。



■新渡戸稲造

台湾の製糖産業の品種改良や耕作・加工法の改善を指導し、世界有数の産地へと押し上げた「台湾製糖の父」。



■八田與一

台湾南部の嘉南平野に当時東洋一の規模の「烏山頭ダム」を建設。嘉南平野を豊かな穀倉地帯へと変えた水利技術者です。

■鳥居信平

台湾南部の農業生産を高めるため、農業用水路や地下水を利用したダムを建設。屏東県などで現在も利用されています。

■磯 永吉

在来種と日本の米の交配を重ね、「蓬莱米」を開発しました。台湾の米の生産力を飛躍的に発展させた「蓬莱米の父」。

■末永 仁

1910年に台中に渡った農業試験場技師。磯永吉と共に蓬莱米の開発を行い、男性ながら「蓬莱米の母」と呼ばれています。

■新井 耕吉郎

約20年の歳月をかけて、日月潭に台湾紅茶産業の礎を築きました。記念館や銅像、宿舎などは復元保存されています。

現代の台湾で人気・流行している日本文化

歴史的にも台湾と日本の関係は身近ですが、現在の台湾にも様々な日本文化が浸透しています。



飲食店

日本の大手チェーン店をはじめ、様々な外食産業が台湾に進出しています。日本のラーメンも人気です。



量販店

洋服の量販店やコンビニエンスストア、ドラッグストアなど、数多くの日本企業が店を構えています。



マンガ・アニメ・ゲーム

世界的に高い人気を集めている日本のマンガ・アニメ・ゲームは、台湾でも大変な人気を誇っています。



テレビ番組

ドラマやバラエティなど、日本の様々なテレビ番組が放送されており、視聴率も高いようです。



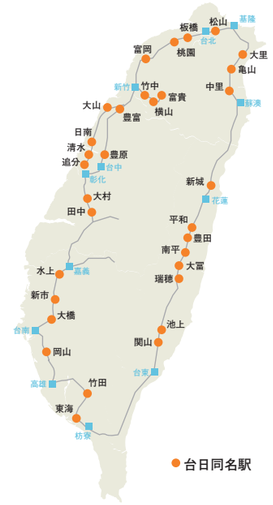
お菓子

日本のお菓子は大変な人気です。メーカーが台湾用の商品を開発するほどで、お土産としてもよろこばれます。

知っていますか？

台日同名32駅

日本と台湾には板橋駅、松山駅、岡山駅など、同じ名前の駅が「32駅」あることをご存知ですか？ 日本統治時代に台湾鉄道が建設されたため、地名や駅名に日本語表記が残っている影響などから、同じ駅名が見受けられます。みなさんの身近な駅が台湾で見つかるかも!?



知っていますか？

東日本大地震での義捐金

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、台湾からは海外最多の200億円を超える義捐金が送られました。このことからも、日本と台湾の深いつながりと、日本への高い関心が寄せられていることがうかがえます。

学校交流

海外で教育旅行を実施する
多くの学校にとって、最重要ともいえる「学校交流」
台湾は教育現場においても日本の学校との交流意欲が高く、
各校の教育方針に沿った交流相手校探しやプログラムのアレンジが可能です。

台湾の教育制度の概要

1968年、政府による義務教育制度が6～15歳までの9年間と定められ、以来、現在までその教育制度が確立されています。日本の小学校に当たる6年制の「国民小学」、日本の中学校に相当する3年制の「国民中学」までが義務教育で、「九年国民教育」と呼ばれています。

初等・中等教育の就学率は90パーセントを超えており、国民中学を卒業した95パーセント以上の生徒が、日本の高校や専門学校に相当する3年制の「高級中学」や「高級職業学校」へと進学しています。



台湾の学年制度

年齢	3～5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
台湾の学校	幼稚園 保育園	国民小学 （小学校）						国民中学 （中学校）			高級中学 高級職業学校 （高等学校・専門学校）			総合大学 科技大学 （科学技術大学）				大学院 就職	

交流意欲が高い台湾の学校

同じ世代の生徒たちが共に過ごすことで、お互いの文化や価値観の違いや共通性を知り、国際理解教育を実現するのが、このプログラムです。

英語学習に熱心な台湾では、英語をベースにしたコミュニケーションが可能で、彼らとの交流によって中国語や英語など、外国語への学習意欲が高まります。

また、高級中学（高校）では日本語学科を設けている学校や、第2外国語として日本語を選択できるところも数多くあり、日本語を交えたコミュニケーションも期待できます。

ちなみに、訪日教育旅行で最も多いのが、台湾の学校です。400校を超える学校から1万3千人以上の生徒*が、教育旅行で台湾から訪日しています。現在は相互交流活動も盛んに行われており、そうした日本との交流意欲の高さも、充実した交流体験を後押しするものになるでしょう。

*文部科学省（日本）／平成29年度高等学校等における国際交流等の状況について

日本の高校とここがちがう！

『昼寝タイムを設置』
台湾の学校では、昼食後に生徒が机に伏せて20分～30分ほど昼寝をします。仮眠をとることで午後の授業も集中できる効果があると言われています。

『ランチ事情』
給食が基本で、中にはお弁当を持参する生徒もいます。台湾では、お弁当は「温かいものを食べる」という習慣があるので、学校にはお弁当を温める巨大蒸し器があります。

『部活は授業時間内に』
日本でいう「部活」は、放課後ではなく月1～2回授業時間内にあります。

交流プログラムの例



★文化交流

体育館や講堂に集合し、お互いの伝統文化や得意分野を発表・披露しあう文化交流。現地校に到着後、はじめのセレモニーとして実施される場合も多く、生徒同士がお互いを知るきっかけになります。



★スポーツ交流

体育館や校庭で、生徒たちのなじみのあるスポーツを実施します。日本と台湾の合同チームを編成することで、スポーツを通して多くの会話が生まれます。言葉に自信がない生徒も交流しやすいのが特徴です。



★自由交流

日本・台湾双方の生徒混合のグループに分け、学校内の案内や自己紹介、ゲームなど、自由な交流を行います。生徒たちが自分たちでコミュニケーションをとるうちに、自然と距離が近くなります。



★特別授業

事前に現地校と討議するテーマを設定し、研究してきた内容をもとにディスカッションをしたり、ディベートを行ったりします。お互いの文化をより深く理解するために、調理などの専門分野での共同授業も行われています。

生徒の声



修学旅行を通して日本のよさを再確認し、また自分自身も振り返ることができました。これからは、今の自分の狭い視野から卒業して、周りにも気を配れるような人になりたいと思います。



私は台湾修学旅行が楽しみでもありましたが、どちらかといえば台湾という異国の地の日本文化との違いを不安に思う気持ちのほうが大きかったです。ところが、いざ行ってみると、その文化の違いがとても新鮮で興味深く、不安は楽しさに変わりました。異文化を恐れるのではなく、楽しむことが大事だと実感しました。



今回の台湾修学旅行を通じて台湾の歴史や建造物を知ることができた上に、さらに日本人の食に対する傾向や他国との相違点を見つけることができました。普段当たり前に目にしているものも、他国との比較を通して見ると、新たな発見をすることができる。これが私の海外修学旅行での最大の発見です。他国を通して自国を知るよい経験となりました。

プログラムの例

台湾の教育旅行では、
歴史や芸術などを体験するカルチャープログラム、
「食事」への意識が高い台湾人の食文化が実感できる体験プログラム、
テーマにそって各地を巡るフィールドワークプログラムなど、
多彩なプログラムがデザインできます。



京劇（国劇）鑑賞

中国大陸に起源を持つ台湾の伝統芸能のひとつ。台北市には代表作の名シーンや特殊メイクを間近で鑑賞できるプログラムがあります。また、伝統芸能劇「布袋戯」や獅子舞、龍舞などのアクロバティックな動きを間近で体感することができます。

【プログラムの種類】

カルチャー
伝統文化だけでなく、若者が発信する最新カルチャーに触れ、台湾の歴史や独自性を学ぶことができます。

食文化
台湾の「食」を通して異文化を体験します。プログラムが豊富なので、場所、人数、学習目的から選べます。

フィールド
生徒たち自身で行動し学びを深めます。公共交通機関が発達し、治安が良い台湾だからこそ実現できます。



天燈上げ

直径1メートルほどの油紙と竹でつくられた天燈（スカイランタン）に願いごとを書き、気球と同じ原理で上空に飛ばす天燈上げは、台湾ならではの文化です。天燈がユラユラと昇ってゆく幻想的な光景に、感動すること間違いありません。



寺廟参拝

道教やキリスト教、仏教の進行が盛んな台湾。各地で目にする色鮮やかな寺廟には、台湾独自の文化や歴史を感じることができます。実際に参拝し、境内の日本とは違うおみくじを引いてみるのも、生徒たちにとって興味深い体験といえます。



B&S（ブラザー＆シスター）

現地大学生と交流しながら、いっしょに市街を歩くB&S。台湾には日本語が話せたり、日本への関心が高い大学生が多く、教育旅行のプログラムに盛んに組み込まれています。台湾人と身近にコミュニケーションすることで、様々な発見があります。



小籠包づくり

台湾の代表的な料理として知られる小籠包をつくる体験プログラムです。台湾の料理学校や有名レストランなどで、小籠包づくりを体験することができます。調理後は自分たちがつくった小籠包と職人さんのものを食べ比べして、違いを楽しめます。



先住民文化

台湾各地にはアミ族やタイヤル族など、総人口の約2パーセントを占める先住民が固有の文化を持ち、暮らしています。中部の日月潭、北部の烏来、東部の花蓮などの各文化的施設では、先住民の食事や伝統舞踊など、多様な文化に触れることが可能です。



太極拳

台湾では普遍的な健康法として、古くから広く親しまれています。早朝の公園や広場などで、台湾の人々といっしょに気軽に参加できます。また、野外カラオケ、ダンス、健康体操など、台湾の公園は朝から夜まで、活気にあふれています。



観光工場体験

台湾では観光工場の一部を開放しています。芸術ガラス陶芸・楽器づくり等の芸術工芸体験、石鹸・タオルづくり等の生活用品、健康美容品、パイナップルケーキ等の食品・お菓子づくり体験など様々な工場見学・体験プログラムが用意されています。



台湾料理体験

担仔麺・牛肉麺・魯肉飯をはじめ、豆花・タピオカミルクティーなど、台湾には魅力的な食べ物がたくさんあります。それらを食べたりつくったりすることで、台湾人が「食文化を大切にしている」という理由を知る良い機会になるでしょう。



茶摘み・製茶体験

台湾の気候はお茶の栽培に適していて、烏龍茶・東方美人茶・包種茶・鉄観音茶・紅茶など、多種多様なお茶が収穫されています。各種銘茶の茶園での収穫体験ができます。茶藝館ではお茶に合わせた料理を楽しみ、博物館では台湾茶史を学ぶことも可能です。



観光農業体験

台湾の農業委員会が認定しているレジャー農場が約50か所あります。各地の特徴を活かした体験ができ、農業、フルーツ収穫、花畑など、自然を無限に楽しめます。また、湖畔や森林での散策、天体観測など、様々な体験が可能です。



歴史建築めぐり

台湾各地には、数多くの歴史的建築物が史跡として指定されています。カフェなどに再利用する取り組みも進んでいます。台北市では官庁舎の集まる城中区のほか、大安区や北投区でも日本統治時代の建築物が見られ、日台史を知るのに最適です。



古都で史跡めぐり

200年以上にわたって台湾の中心地として隆盛を極めた古都・台南。台南はコンパクトな街なので、学問の神様である孔子を祀る台湾最古の孔子廟、国家一級古跡の台湾大天后宮など、史跡や文化財が数多く残る場所を、徒歩で巡る研修が可能です。



台湾高速鉄道（新幹線）＆台湾鉄道

台北から高雄を結ぶ高速鉄道は、日本の700系新幹線がモデルとなっており、日本の新幹線技術を輸出したはじめての事例です。また、台湾鉄道が走る区間は、海岸線沿いや渓谷沿いなどが多く、台湾有数の絶景を楽しめます。



現代文化に触れる

「台湾の原宿」とも呼ばれる西門町は、日本の若者にとっても興味がそそられる人気エリアです。おしゃれな雑貨やおいしいスイーツはもちろん、日本との共通性や日本文化がどのように受け入れられているかなど、等身大の研修が可能です。

台湾教育旅行
ケーススタディ
1

愛知県立豊田東高等学校

開始年 2017年から　参加人数 240名　実施時期 10月　実施日数 3泊4日（2019年は4泊5日）　訪問都市 台北・九份

DATA 愛知県豊田市御立町11-1 | https://toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/cms/







台湾教育旅行の目的

豊田東高等学校（以下、本校）は、ユネスコスクールに加盟し、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進校として、国際理解教育を実践しており、その一環として海外修学旅行を実施しています。海外修学旅行を通して、異国を知り、体験することで、異文化への理解や関心を深め、さらに自国の文化を確認し発信する力を養うことをねらいとしています。

台湾を本校の修学旅行先に選んだ理由は、多数あります。日本と非常に関わりが深く、文化的な相違を比較しやすいこと、その関係を遡ることで、両国の歴史やその影響についても学ぶことができること、親日で治安が比較的良く、政情も安定していること、愛知県の中部国際空港から桃園国際空港までは、直行便が出ていて学年全体が同便で移動することができ、なおかつ所要時間も約3時間ということ、県内の他の高等学校でも台湾への修学旅行の実績があったことが決め手です。

台湾教育旅行を実施した感想

生徒たちは、物理的に近く、親日である台湾であっても「異文化」であることを学びました。その中でも、身振り手振りや英語を使い、相手を理解しようとすることで、意思の疎通が図れること、そのようにして通じ合ったときにはとても嬉しいこと、何事も自分から行動を起こさなければ始まらないことなど、大きな学びを得たようです。修学旅行前は「自分」中心だった生徒たちも、「他者」に目を向け、周りの人の想いを想像できるようになったと感じます。

また、海外では想定外のことが当たり前に起こります。集団で予定通りに行動することの難しさや、それを実現するために自分がどう振舞ったらよいか、生徒たちが自分自身を顧みる良い機会になりました。

情報を簡単に得られる時代ではありますが、現地に赴き、行動し、肌で感じたからこそ、台湾の人のあたたかさや文化の違いなど、台湾の魅力をより深く知ることができたのではないかと思います。

事前学習の内容

「総合的な学習の時間（当時）」を活用し、1年次2月より事前学習を行いました（修学旅行自体は2年次10月に実施）。

① 台湾観光局による講演
② 修学旅行ガイドブック作成
③ 自己紹介カード・ピクチャーブック（日本の文化を紹介するカード）作成（現地校交流、B&Sプログラム参加時、現地の学生と交流する際のコミュニケーションツールとして利用）
④ 交流計画・B&Sプログラム作成
⑤ 生徒・教員によるオリエンテーション（歴史、文化、食、名所旧跡、飛行機搭乗時の注意、英会話・中国語会話など全7回）

生徒の声

- 自分の足で現地へ行って、目で見て感じることはとても大切だと思いました。
- 異文化を理解する努力ができました。台湾人の中に飛び込んでみて楽しかった。

【日程表の一例】

10月16日		10月17日				10月18日		10月19日	
愛知	桃園	桃園		台北		台北		桃園	愛知
16:50	19:00	午前	昼	午後	夜	午前・昼	午後	11:45	15:40
中部国際空港から出発	桃園国際空港着	学校交流（光復高級中学）	校内でお弁当	故宮博物院見学→九份観光	レストランで夕食	B&Sプログラム、中正紀念堂	台北市内研修（忠烈祠、龍山寺、台北101）	桃園国際空港から出発	中部国際空港着

台湾教育旅行
ケーススタディ
2

大分県立大分舞鶴高等学校

開始年 2009年～2019年　参加人数 40名程度　実施時期 1月末　実施日数 3泊4日　訪問都市 台北・新竹・花蓮など

DATA 大分県大分市今津留1-19-1 | http://kou.oita-ed.jp/oitamaizuru/







台湾教育旅行の目的

大分舞鶴高等学校（以下、本校）では、次のような目的で、平成21年度から台湾教育旅行を始めました。

① SSH研修の一環として、台湾の高校生たちと英語による課題研究を行うことで、相互の交流と英語力の向上を図る。
② 温泉県である大分と、同じく温泉大国である台湾の温泉研究を行う。
③ 発展を続ける台湾のコンピューター産業を見学し、将来の国際社会に対応する一助とする。
④ 日本と台湾との友好関係をさらに発展させる。

最初は、本校単独で行っていましたが、平成23年度からは、コアSSHとして大分県の三校の高校が合同で、訪問しました。



台湾教育旅行を実施した感想

生徒たちの研究意欲が向上し、特に英語を学ぼうという意欲が高まりました。生徒たちは、台湾の高校生の優れた英語力と研究発表の内容の深さに驚いていたようです。また、台湾の産業発展や、台北101、新幹線、MRTには、日本の技術が多く利用されていることがわかり、IT産業やコンピューター産業に興味をもった生徒たちが多かったです。交流先の第一女子高級中学校の生徒さんや国立台湾大学の学生さんの対応が素晴らしく、食事も非常に美味しかった印象です。

事前学習の内容

各班ごとに課題研究をまとめ、英語で発表する準備を行いました。現地の高校生と研修内容を事前に交換し、相手校の研究内容を把握し、質問項目を事前に作成しました。また、日本と台湾の歴史的な背景について事前学習を行いました。

生徒の声

- 今回の研修を通して、今までの自分の視野がいかに狭かったか、世間がいかに広いか、文化的に近い台湾への研修に行くことで、国風の違いがリアルに感じられました。今回の経験を少しでも日々の生活と、これからの将来に活かせるように頑張りたいです。
- 台湾の高校生たちの積極性と好奇心の強さに驚きました。積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれ、その積極性の根底には「知りたい」という強い好奇心、興味・関心が働いているということが伝わってきました。
- 日本の技術が台湾でも使われていて、自分もいつか世界で使われるものを作りたいと思いました。





【日程表の一例】

12月14日			12月15日		12月16日		12月17日		
福岡	桃園	花蓮	花蓮		台北・新竹		台北	桃園	福岡
10:25	12:05	15:00	午前	午後	午前	午後	午前	17:50	20:55
福岡空港から出発	桃園国際空港着→バスで台湾松山空港	飛行機で花蓮→太魯閣渓谷で研修	学校交流（花蓮高級中学）	タロコ号で台北に移動	北投温泉での調査実習	花博、中正紀念堂、サイエンスパーク（バッテリー工場）、台北101見学	国立台湾科学博物館、故宮博物館訪問	桃園国際空港から出発	福岡空港着

Taiwan
THE HEART OF ASIA

台湾観光局

台湾観光局・台湾観光協会
https://jp.taiwan.net.tw/

東京事務所
〒105-0003　東京都港区西新橋 1-5-8 川手ビル 3 階
Tel：03-3501-3591

大阪事務所
〒530-0047　大阪府大阪市北区西天満 4-14-3 リゾートトラスト御堂筋ビル 6 階
Tel：06-6316-7491



「台湾教育マニュアル」
発行：台湾観光局／台湾観光協会　　2022 年 9 月発行
編集・制作：KBUNSHA

本誌の一部または全てを無断で複製・複写・データ化することは固くお断りします。